

## 知恵ある人の教えは命の“いずみ”である。(箴言13章14節)

編集：愛宕町教会・総務部 発行者：宍戸俊介 発行所：甲府市北口3-4-23 日本基督教団愛宕町教会 TEL 055-253-3150 URL <http://www.geocities.jp/atagomachikyukai/>

### みことば

## わたしたちの時間、暗闇から光へ

聖書 創世記第1章1〜5節

牧師 宍戸俊介

初めに、神は天地を創造された。地は混沌であつて、闇が深淵の面であり、神の霊が水の面を動いていた。神は言われた。「光あれ。」こうして、光があつた。神は光を見て、よしとされた。神は光と闇を分け、光を昼と呼び、闇を夜と呼ばれた。夕べがあり、朝があつた。第一の日である。

(創世記第1章1〜5節)

初めに、神は天地を創造されたと言われています(1節)。この初めとは、時間的な意味での「初め」ではありません。なぜなら、神様は天地創造の一日目に光をお造りになりましたが、この光が闇と交代することで、「夕べ」と「朝」が生まれました。それによって、第一の日、第二の日と数えられる「時間」が誕生したからです。時間は最初からあつたのではなく、神様によって造られたものなのです。神様は「光あれ」とおっしゃって光をお造りになった時、同時に時間もお造りになりました。

す。神様は、天地創造の最初の二日間、時間と空間という、わたしたちの世界の基本的な座標軸をお定めになり、その後、三日目から、その造られた時空の中に、世界の一つひとつの具体的な事物をお造りになって行かれたのでした。

従つて、創世記1章1節の最初に出てくる初めは、時間的な意味合いでの最初ではありません。そうではなくて、この世界の一番の始まり、時空が形づくられるよりも前のところに、神様ご自身が立つておられるということを、この初めは言い表しているように思います。

ところで、その神様が、最初に光をお造りになり、時間の流れを造つてくださいました。その際、神様は、闇の中に光をもたらずというふうな、この世界の時間をお造りになられました。時間は混沌とした暗闇に、神様のお造りになった光が射すという仕方では生み出されたのです。ですから、わたしたちの世界の時間は、混沌とした暗闇から、神様の御言によって生きたことのできる光の中に導かれるように造られているというのが、聖書の主張です。わたしたち

の人生の時も、この神様の御手の内にあるのです。どこから生まれさせられたのか分からなければいけません。わたしたちはこの地上の中に誕生させられていた、そしてある程度の時間を生きて、またどこへとも知れず混沌の中に去つて行くというのではないのです。

そうではなくて、わたしたちは、生まれたときから、神様の備えてくださった時間の下に生まれさせられています。そして、この世界は、暗闇と光とが交錯し、繰り返して行くように感じられることがあつても、それは、実は光に向かつて進む時間の中に置かれているのです。

「あなたの人生は、混沌とした暗闇から、御言に照らされ、御言に秩序づけられる光に向かう時間の中にあります。」—聖書はそのように告げてくれているのです。

★★★

神様は、御言によって世界の基本的秩序となる座標軸をお定めになりました。3節に、神は言われた。「光あれ。」

こうして、光があつた

と言われています。この光に照らされて、時間が生まれます。混沌とした暗闇に覆われているようであっても、わたしたちはそこに、明るく輝く光の訪れる時を待ち望んで良いのです。神様が光をお造りになり、それによって時間をお造りになった最初の時から、わたしたちは神様の与えてくださる光と秩序を待

ち望んで良いようにされているのです。

神様は、光に満ちた中に暗闇をお造りになったのではありません。むしろ事情はその逆です。混沌とした暗闇が覆っていたところに光をもたらし、時間の流れを創始され、さらに、そのところにわたしたちの生きる空間も造つてくださり、命を生きたりすることができるようになってくださっています。わたしたちは、この神様の与えてくださる時空の中を持ち運ばれ、旅をして生きる者たちとされているのです。

★★★

人生においては、時に思いもしなかったような困難に遭遇し、試練を経験させられる場合があります。しかし、そんな時にも、わたしたちは、神様が、この世界を闇から光に向かうように創造してくださったことを信じて良いのです。天地創造の信仰には、そんな慰めが込められています。神様は、わたしたちが神様の保護の下、神様に信頼を寄せて生きて良いように、この世界をお造りになり、時間と空間の中に、わたしたちの生きる上で必要なすべてのことを満たしてください、その上で、創造の六日目に最初の人間であるアダムとエバをお造りになったのです。

わたしたちの人生は、たとえ思いがけないことに出遭う時も、神様によって保護されています。そのことを、天地創造の記事は教えてくれています。

2017年4月 5日(水) 午前7時  
 ~ 13日(木) 午後8時 予定  
 14日(金) 午前7時20分 完了

## 受難節 聖書全巻リレー通読

### 初めての試み、聖書全巻通読の志を 与えられて

〔総括〕 宍戸 俊介 牧師

愛宕町教会では、2017年度の教会年間計画の中で受難節の聖書全巻リレー通読の実施を掲げました。その計画に基づき、4月5日(水)より14日(金)まで、のべ96時間ほどを費やして、創世記のはじめからヨハネの黙示録の終わりまでを読み通すことができました。

この聖書通読の志が与えられたきっかけは、東海教区内ですでにリレー通読に取り組んでいる教会があることを知らされたことによりです。2016年3月に行われた東海教区信徒研修会のおり、夜、牧師同士で話をしていた時に、聖書全巻リレー通読を実施している教会の経験を伺う機会があり、ぜひ取り組んでみたいという志を与えられました。ただ、愛宕町教会の年度は1月から既に始まっておりましてので、2016年度の実施は見送り、2017年度の年間計画の中に憶えて実施することに致しました。

最初、役員会にこの取り組みを提案した時には大変驚かれましたが、全巻通読を試みたいという前向きな意見と、教会全体の取り組みとして、これを行えるだろう



4月第1主日礼拝にて、新共同訳大型聖書を奉獻

かという慎重な意見と、その両方の意見が出されました。慎重論ももつともなご意見と感じましたが、私自身は何とか実施して頂けないだろうかとお願いました。受難節に教会堂の中で休まずに聖書の言葉が朗読されている場面を想像し、日頃、教会の礼拝においてにれない方のためにも、聖書が開かれ、御言が読み上げられ続けていることが善いことであり、また必要なことだと感じたからでした。役員会がそのことを神様からのお召しと受け止めてくださり、また、教会総会でも実施が可決され、実行できたことは、本当に幸いなことであつたと思っております。

実際の通読にあたっては、毎朝7時から夜10時まで15分刻みの表を作成し、主に教会員の皆さんに呼びかけて読んで頂ける時間帯に名前を入れて頂き、その時間に読んで頂きました。日曜日は主のご復活を祝う礼拝の日であり、また、教会の暦でもレントには数えられませんので、月曜日から土曜日までの実施としました。

当初は、通読表が埋まるだろうかを心配していましたが、主日礼拝の度ごとに多くの方が名前を書き込んでくださいました。教会員ばかりでなく、求道者の方や教会学校の子どもたちも名を連ねて参加してくださったことは嬉しいことでした。

実施する段階では、聖餐桌に置かれた講壇用聖書を朗読すること

とし、マイクとスピーカーを通して教会堂全館にその声が聞こえるようにしました。朗読奉仕を通して参加するだけではなく、その朗読に実際に耳を傾けるという仕方でも参加できるように願つてのことでした。教会玄関と東西の駐車場の看板にポスター(伝道用大型ポスター)による聖書通読実施中を告げる周知活動も行いました。また、この全巻通読のために、講壇用聖書の新共同訳を備えることができたことも幸いなことでした。

そのようにして始まった聖書通読でしたが、教会員、求道者、子どもたちだけでなく、ふだん教会の前を通つていて、教会のことが気になつていたという方も、繰り返し聖書通読を聞きに教会玄関のロビーに足を運んでくださり、遂に飛び入りでご自身も15分ほど朗読に参加するということも起こりました。本当に不思議な出会いを経験させられたという思いがしております(ちなみにこの方は、イースターの朝、千代田霊苑で持たれた山梨県教会一致懇談会の早天礼拝にも参加なさいました。ふだんの礼拝の時間帯は家庭での所要があるため礼拝に参加はできないけれど、仕事帰りの時間帯に聖書朗読を聞くことができたことを喜んでおいででした)。朗読に参加できたお一人ひとりごどんな経験をなさり、何を感じられ、考えられたかは、この「いずみ」の続くページに紹介されている通りです。聖

書をいつも以上に身近にお感じになつた方、聖書の御言に惹き込まれて、時を忘れて聖書を朗読なさつた方も大勢おられたことと思います。

実際に通読して気づかされたことですが、わたしたちキリスト者のこの世に対する奉仕の業の一つとして、他者のために聖書の御言を読み上げることがあるのではないのでしょうか。世にあるキリスト者の使命ということでは、わたしたちはふだん、お祈りすることが大切な使命だと思つて暮らしているのですが、御言に聴くこと、また、聞くことができるように読んでさしあげることが非常に大切な務めであることを思わされました。

通読に参加してくださった方々は、その通読している時間、聖書を読み、またご自身の声を通してその御言を聞いておられたのですが、私自身は、仕事の合間にホールに降りて行き、朗読して下さっている御言を聞くという経験をさせて頂きました。わたしのためにも主が御言を読み上げ、聞かせてくださっているという大変貴重な経験をさせて頂きました。

来年度もレントの期間に聖書全巻リレー通読に取り組みたいと願っています。御言を黙読するだけでなく、それを声に出して読み上げ、また、その御言に耳を傾ける務めを、来年度も行わせて頂けるように、神様に憐れみと導きを祈り願っています。

## 通読に参加した方々の感想

雨宮 修 ◆◆◆◆◆

初めて聖書を30分音読しました。筋を追って読もうと思いましたが、途中からくたびれて、読むことに専念してしまいました。しかし、聖書を読んだだけでしたが、次第に力が与えられ、体が温まってきたように感じました。55人で読破、みんな協力すると短期間で読破できることがよくわかりました。今後もこのような新しい企画をお願いします。

雨宮 恵子 ◆◆◆◆◆

聖書を声を出して読むことを通して、何か不思議な力が働いて

雨宮 健 ◆◆◆◆◆

この通読を一例として、聖書に親しむことを心掛けたい。

有泉美津子 ◆◆◆◆◆

広い礼拝堂に一人、神様のご臨在を一身に感じながら、聖書を読むという本当に豊かな恵みに与り、感謝でした。

石垣 忍 ◆◆◆◆◆

主のご受難を覚えつつ、多くの兄弟姉妹方と共に時をささげ、読みつなぐ深い交わりができたと思います。

然、御言葉が届かぬ者となり、道のともしび、日毎の糧から逸れて行きました。その年数があまりにも長かったので、少しでも多く読むようにと、主がその機会を与えてくださったように思います。7回も、感謝であります。

主は「わたしについて証しをしているのが聖書」と言われました。イエス・キリストを指し示すことを心にとめ、その文章を、主のお姿を

ていたように思います。祈りともとれるような感じでした。

雨宮 健 ◆◆◆◆◆

はつきりと見ることができるようになりました。涙をもって読んだところもありました。恵みがあふれていました。詩編25編「主よ、わたしの魂はあなたを仰ぎ望み、わたしの神よ、あなたに依り頼みます」。

石橋一芳・茂美 ◆◆◆◆◆

家族3人、それぞれ30分ずつの参加でした。一人4〜6章程度の朗読です。

あの長い長い聖書の中のほんの少し、神様に用いられての力のない私達そのものようでした。

30分しかできないことに申し訳なきもありましたが、身の丈にあった用いられ方で生かされていくのだなあと、感謝するに至りました。

入來 澄子 ◆◆◆◆◆

4月10日10時〜10時30分、4月12日11時30分〜12時と参加させて頂きました。教会の日曜礼拝に伺うようになってまだ一年に満たない者ですが、穴戸先生から参加しても良いと許されていたので、喜んで参加いたしました。

12日のことですが、11時武田神社発のバスに乗れば10分で駅に着き、15分過ぎには教会に十分着ける予定で家を出ました。不覚にも、その日が信玄公祭りであることを知らず、神社へ

着いたら人が一杯で、11時にはお神輿やら騎馬隊の行列やらでざわざわしていたので不安になり、少し歩いてタクシーを捕まえようと思いましたが、だんだん交通規制が始まり、バスは動いている様子もなく、痛い膝を抱えて必死に駅へ向かって歩きました。時間はほとんど過ぎるし、教会へ電話しようかとも思ったのですが、ともかく歩きました。山手通りの少し前で11時20分頃、奇跡的にタクシーを捕まえ、教会へ着いたら5分前でした。

本当にホッとして30分読ませてもらいましたが、どこをどう読んだか思い出せないほど、緊張の時間でした。何年ぶりにか3キロほど歩きました。神様が間に合うようにタクシーを向けてくださったのかと感謝の一日でした（私は膝に疾患を持つので、歩行が十分にできません）。

荻野 美枝 ◆◆◆◆◆

静かな礼拝堂で、先に読まれている方の朗読を聞きながら、時の来るのを待っていました。日頃の煩わしさから離れて、無心で聖言葉を朗読しました。

申命記には、神の民として御前にどのように生きるのかが細かく記されており、御言葉が語りかけてくださいました。私の信仰のあり方や、周りの人々との接し方を示されました。「既に約束したとおり、あなたは宝の民となり、すべての戒めを守るであろう。造ったあらゆる国民にはるかにまさるものとし、あなたに賛美と名声と誉れを与え、既に約束したとおり、あなたをあなたの神、主の聖なる民にする」(26章18・19節)。

愚かで取るに足らない私も、聖なる神の家族の一員に加えて頂き、感謝です。これからも、このような計画が続けられますように願っております。ありがとうございました。

河野 和彦 ◆◆◆◆◆

およそ60年前、受洗の前後に旧・新約聖書(文語体)全巻を通読した記憶があります。今回の通読会では出エジプト記29章〜33章の5章を読むことができました。4月5日(通読最初の

岩下 成代 ◆◆◆◆◆

1時間読み通せるのか不安でしたが、聖書にのみ心を向け声を出して読む、本当に恵みの時が過ごせましたこと、感謝の出来事でした。

楽しかったです。来年もまた企画してほしいです。

荻野 淳子・優 ◆◆◆◆◆

読み始めてみると、15分という時間は、短く感じました。礼

日) 15時から30分でした。アロンとその子らを祭司とした任職式に始まり、香をたく祭壇の設計図、香料の調合などと、礼拝の説教では取り上げられることが少ない箇所から入りました。

シナイ山でモーセが安息日について主から示され、自身が石に刻まれた「十戒」を授けられる場面、その間が長引いたので民がアロンに迫って金の若い雄牛の像を作らせた状況になって、やつと親しんだ話題に入りました。モーセが再び主の元へ戻ると、この状態に怒りを燃え上がらせた主。「折角エジプトから導き出した民を滅ぼすなんて」と、民の上に災いを及ぼすと怒る主をモーセがなだめて思いとどまらせたシーンは新鮮でした。レビの子らが祭司職に任命され祝福を受ける場面はシヨックを受けました。モーセが主に栄光をお示しになるように願い、「主」という名を宣言された場面で終わりました。

実は本番で読み終わった時、内容をほとんど覚えていません。この文を記すにあたり、読み返しての感想です。旧約における神・主は厳しいお方です。信仰告白・受洗した僕も出エジプトの民と同じように絶えず揺らぐ信仰の持ち主です。神の独り子イエス・キリストの十字架と死による救いの幸せを覚えたひとときでした。

一人で通読する時は黙読ですが、5つの章を30分で声を出して読むのは初めての経験です。終わり頃には、声がかすれたような状態でした。

#### 河野 光恵

旧約聖書を声を出して読むのは久しぶりでした。出エジプト記34〜38章でした。残念なのは、読んだ内容を覚えていないことです。

#### 小林 洋子

聖書全巻リレー通読に参加できましたこと、本当にうれしく光栄に思います。章の始めから章の終わりまで時間内に読めるのかドキドキしましたが、主共にありて守り支えて下さいましたことを実感致しました。

声を出して読み進めることはあまりないので、この通読リレーは本当に良かったと思います。また続けられたら良いと思います。各自が読む速さも違いますが、全巻を読み通す試みは良いと思います。私にとつてすばらしい出来事、主にやさげでき、とても幸せでした。

礼拝堂に5分位前にならないと入れないというのは何故でしたか？一人静かな方が良いということでしょうか(外はマイクで聞こえますから良いと思いますが)。

#### 穴戸 尚子

出勤時、聖書を読んでくださっている声に送り出され、何とも言えない励ましに満たされました。また仕事中も「今、礼拝堂で聖書が読まれている」と思うと力が湧きあがるような思いにもなりました。

私は21時以降の朗読に取り組みましたが、夜、帰宅すると礼拝堂から美しい光が輝き出ているようでした。みなさんと一緒に聖書を読んでいることが大きな力となることを実感させられる期間でした。

新しい方たちや娘も朗読に加わることを許されて感謝しています。ポスデカの効果は絶大で、職場の仲間からも応援してもらいました。準備してくださった方々、ありがとうございました。

#### 鈴木 教子

4月14日午前7時、ヨハネの黙示録19章〜22章。

講壇の聖書が新しくなり、初めから終わりまで通読する機会が与えられた4月5日から14日までの期間、三井姉より「時間があったら参加してネ!」とお声をかけて頂きましたが、仕事優先の私は13日まで休めず、14日最終日が休みだったため、午前7時に名前を入れておいたところ、「通読が前日で終わる」

との連絡が入り、実は少々ホツとしました。通読に参加したのは良いが、カタカナばかりだったらなどと思っていたからです。ところが、参加できないと思っていたのに「14日は予定通り」と連絡が入りました。なんとなんと、最後の最後ではありませんか。こんな私のような者が読んでも良いのだろうか?と困ってしまいました。

一字一句、声を出して読むごとに、小羊であるイエス・キリストの言葉が迫って来ました。これでもか、これでもかと、「貴方は大丈夫ですか?」と問われる思いで読ませて頂きました。読み終え、「正しい事をやり通そう」と、新たに思い、勇気付けられたひとときでした。

通読に参加できたこと、神様のお導きに感謝しております。

#### 清藤 和子

出来ないと思い、消極的だったが、何とかやれた。

参加したいが足がなくて来れない人などへの配慮も必要だったか、参加出来なかつた方に疎外感はなかつたか、ルールが一部確定していなかつたのではなにか、等が気になった。

#### 清藤 城宏

聖書を皆で読む、教会全体の取り組みとして実施できたことをうれしく思います。多くの方が参加できたことは何より

でしょう。日ごろ、「信仰を個人のものにせず、教会全体のもの・教会(礼拝) 共同体の枠組みの中に属することで自分たちの居場所を持ち、生きる拠りどころを得ていることは健全だ」と思っておりましたから、その具現化の恵みのひと時だったと感謝でした。

#### 田中めぐみ

ただ欲を言えば、参加できなかった方々に対する配慮はどうであったかとも感じましたが。

受難節に聖書全巻通読を皆で成し遂げて、イエス様の御心に少しでも寄り添いたいというお一人お一人のお気持ち、リレーし繋げることは、私にとつては緊張の役割でした。

私たち罪人の救いのために十字架へと歩まれたイエス様のことを思いつつ、なんとかバトンを受け、途切れさせてしまうことなくリレーでき、ほつとしたことと共に、たった1時間だけだったのですが、礼拝堂でのピンと張り詰めているような空気と、柔らかな採光の中、次第に緊張もほぐれていき、共にある喜びと感謝の思いに満たされました。

#### 長澤 邦子

長い間聖書を読んできたのに、御言葉を目で追って(黙読)読み進んでいただけで、声を出



教会駐車場と正面玄関に貼り出していた大型ポスター

して（音読）読んだことは殆どなかったと思います。  
 初めてのリレー通読に、僅かな時間でしたが参加させて頂き、今までは黙読で大雑把に読んでいたことを感じました。  
 そして、御言葉を音読した時の緊張感を忘れてはいけなと思います。

様の中で罪を犯さず神の教えに従順であった王はダビデだけであって、他の王たちは罪を犯し不従順であった。それ故に、ダビデは繁栄し他の王は滅びてしまった。私たち基督教信者も同じであることを感じた。  
 ＊詩編は殆ど、ダビデが神に祈り求めた詩である。  
 私は以前から「信徒の友」の聖書日課を使用して毎朝神に祈っている。

しよう」と促されました。今日の辺まで読まれているのか分かります。携帯電話のアラームを設定しておいたので、三井さんが来ましたが、「もう少しね！」とアラームが鳴るまで読み、バトンタッチしました。始めから終わりまでのひと時を心満たされ過ぎることができ感謝です。参加して御言葉に触れる機会が与えられ、充実した恵みを覚えつつ帰路につきました。本当に良かったです。

てしまったり、一字一句を追うような感じでした。次は三井道子さんです。携帯電話のアラームを設定しておいたので、三井さんが来ましたが、「もう少しね！」とアラームが鳴るまで読み、バトンタッチしました。始めから終わりまでのひと時を心満たされ過ぎることができ感謝です。参加して御言葉に触れる機会が与えられ、充実した恵みを覚えつつ帰路につきました。本当に良かったです。

一人にとっても大変意義深いものであったと思う。  
 ＊予約した時間帯で果たしてこの箇所が当たるのか、それは神様のご計画。きつと何らかの示しがあるのではと期待していた。2回目でエレミヤ書に当たった。やはり示しがあった。聖霊のお働きに感謝！  
 今後の工夫が必要ではないかと思うことを挙げます。  
 ＊教会員全員が参加できた訳ではなく、高齢者や諸々の事情で都合のつかない者があつた。そのような人たちも何らかの方法によって共に加わっていると思える工夫が必要か？  
 ＊教会が思いを一つにして力を入れてこの業に当たっていると、開始は主日の午後とし、より多くの人が集まる時に開会祈禱をもって開始する。また、最後の通読も主任牧師が担当して、多くの人が集まる時間に設定しても良いのではないかと？

と子の親子関係を深く感じた。旧約聖書を読んで、歴代の王

中嶋 長續

花輪 美名

深見貴嘉子

古屋 秀樹

古屋 律子

聖書を読んだことにより、神と子の親子関係を深く感じた。旧約聖書を読んで、歴代の王

花輪 美名  
 レントのひととき、神様のことを覚えて過ごす恵みを与えられましたことに感謝致します。神様と静かに向き合う時間は、日常生活の中になかなか生み出すことができないので、貴重な時間となりました。  
 また、教会全体で神様を覚えることができ、信仰が強められた気がします。ありがとうございます。

深見貴嘉子  
 私の前は山縣洋子さんでした。彼女は私の姿を見るや笑ってしまい、何か読みにくくなつてしまつた？ようでした。ごめんなさい…。引き継いだ箇所は、ミカ書4章5節、ハガイ書1章14節まで（ミカ書、ナホム書、ハバクク書、ゼファニヤ書、ハガイ書）です。旧約聖書の中でもあまり読まれていない書だと思ひますので、この箇所を讀ませていただいたことは何と良かったかと思ひます。「人よ、何が善であり、主が何を前にお求めておられるかは、お前に告げられている。正義を行い、慈しみを愛し、へりくだつて神と共に歩むこと、これである」（ミカ書6章8節）。再度、主の御恵みを認識することができました。

古屋 秀樹  
 多くの恵みがありましたので挙げます。  
 ＊新共同訳の大型聖書が、まさにこの時として与えられたのは、一つの奇跡であつた。  
 ＊真新しい聖書を、神の家族である兄弟姉妹が共同して、1ページから最後のページまで読み繋いだ、その信仰の共同体験は、教会にとっても参加者一人一人にとっても大変意義深いものであったと思う。

古屋 律子  
 今年の受難節は、通読に参加したことで、たくさん聖書を読んだというだけでなく、いっぴくに心落ち着いて主の御受難の御言葉にも聞き、過ごせたように思ひます。  
 礼拝堂での音読には、普段の黙読とは違う緊張感があつて、しかもそれは心地よいものでした。初めは無理だと思つて

平塚 一美  
 初めは、全員参加で通読できるように「個人の都合に合わせて予定表に日時を記入して下さい」とのことでした。4月5日から13日の期間です。会員数が多いので、私はパスしようと思つていました。4月9日の婦人会の最後に、「まだリレー通読の予定表が空いているので、記入し参加しましょう。受難節中に旧・新約聖書全巻読み切りま

最初の滑り出しは順調だったのですが、時間が経つにつれ角度によって文字が見えなくなつ

最初の滑り出しは順調だったのですが、時間が経つにつれ角度によって文字が見えなくなつ

最初の滑り出しは順調だったのですが、時間が経つにつれ角度によって文字が見えなくなつ

いた1時間も苦ではなく、それどころか、御言葉に惹き込まれ力が湧き出るようにして読めました。通読予定の日、教会に入ると静かに御言葉が聞こえてきて、ほんの5分、前の方の朗読に耳を傾けるだけで整えられていくものがありました。パトンを受け渡ししながら読むことで、「主を証する業に、私も加えられている」という一体感を覚え、また期間中は各々が御言葉の恵みに与った喜びを証しする日々であったようにも思いますが、私自身も御言葉との不思議な出会いに聖霊のお導きを思い感謝でした。

次回開催を楽しみにしています。一人でも多く参加していたできるように工夫できればと思います。

保坂 輝美

「主にのみ十字架を負わせまつわれ知らず顔にあるべきかは」讚美歌331番の一節ですが、受難節にこの様な聖書全巻リレー通読という形で贖いの主の十字架の御苦しみを覚える時を与えられ感謝でした。イースターの前の受難週はキリスト者にとって忘れてはならない大切な一週間です。私たち罪人のために主が人となり十字架によって贖って下さいましたことを多くの方が知り、真の神様を信じたいと願います。

前の方より引き継いで、新約

聖書フィリピの信徒への手紙、コロサイの信徒への手紙、テサロニケの信徒への手紙一までを讀ませて頂きました。パウロの手紙は私達へのメッセージでもあり、通読しながらパウロの素晴らしい福音を改めて聴くことが出来ました。

参加する前は1時間も読めるのか心配でしたが、主の導きによりスムーズに読むことができ恵みの時を与えられ感謝です。また、教会の皆さんとリレー式で予定通り全巻通読が完了できましたことに感謝いたします。

三井 道子

私が聖書通読のチャンスを与えられたのは、40歳になってからでした。それまで何度か一人読みを始めたのですが、旧新約共に二書か三書の途中でやめてしまうのです。そんな時、昭和47年教会員有志による「旧約聖書を読破する会」が発足され、早速飛びつきました。現在のように1章ずつ読むのではなく、その都度、鈴木先生が区切ってください、解説してくださいと読み進みました。初めに掲げた表題になんかの異論もなく、すんなり新約に移り、最後の黙示録「主イエスの恵みが全ての者と共にあるように」と結ばれた瞬間の感動は今でも鮮明に胸に残っています。

今度の聖書通読を聞いた時、半世紀前のあの頃に戻って思わ

ず「すごい！」と大声で叫びたい想いでした。聖書は何故か一人では読み続けることはできません。多くの兄弟姉妹と共に読み、祈り、先生のメッセージを心を開いて聞き、そして御言葉を受け入れられると信じています。

そうして長い時、蓄えられてきていると思いついていた私ですが、最近、日々引き算に変わってきていることに気付きました。何時の日か引き算が0になつて何も判らなくなつても、ずっと前、聖書を読み続けた時があった、聖書って面白い！と感動したこともあった。と振り返ることができる。今回、多くの兄弟姉妹と共に聖書通読が出来たことに心から感謝しています。ありがとうございます。

宮崎美千代

声に出して聖書を読むという貴重な体験を与えて頂き感謝いたしております。ことに教会員の方々と全書通読をリレーでさせて頂いたことは、責任と共に連帯感を感じさせて頂きました。

ただ、旧約聖書を声に出して読むとなると、カタカナで記述されている地名と氏名が一回で正しく読めなかったことを反省せざるを得ませんでした。

宮澤 栄子

この度の聖書全巻リレー通読

に参加できた恵みに、まず感謝いたします。

今度あまり耳にしたこともなかった聖書全巻通読という試案が、役員会の承認を得て実行されました。計画された時間内で完読できたこと、一人一人の思いや事情を乗り越えさせてくださった。老いも若きも、子供達も、一つの目標に向かって走る喜びや感動を胸にしつかり受け止めながら走り抜いた時間だったに違いないと、参加した人、祈りの中で参加した人等、至福の時を共有できたと思えます。「あなたがたの内に働いて、御心のままに望ませ、行わせておられるのは神であるからです」(フィリピ2・13)との御言葉にアーメン！

また、私個人としては、参加することに不安を感じていました。声を出して1時間読み続けられるか？途中、喉が痛まないか等、不安を感じて自前のドリンクを作り、当日持参。しかし、そのドリンクは不要でした。声も枯れず喉も痛まず、読み終わって残ったものは、神様の御言葉の豊かさ、御業の確かさ、そして憐れみ・慈しみの深さに改めて圧倒されました。「あなたたちは他のどの民よりも貧弱であった。ただ主の愛のゆえに、御自分の宝の民とされた」、今もなお、余韻として心に残る言葉です。

(祈り) 全能の父なる神様、

聖書全巻の歴史を貫いて今日も生きて働き給う神様に憧れるのです。アーメン

山縣 讓治

初めてのことで、通読できる心配しました。前半は参加者が少なく、多く通読に参加しました。多くの方と通読する喜びを分かち合うことができました。

山縣 洋子

はじめは期間内に読み終えられるのが心配で、少しでも早く、早口で読むだけでしたが、予定表の読み手も埋まっていたので、だんだん楽しみながら読むことができました。列王記は現在祈禱会で学んでいて、4月7日の通読箇所、列王記上14章は、まさに前日読んだばかり、復習できたようで幸運でした。

読み終えた箇所を、その都度通読表に記しておく、次の読み手に分かりやすくして良いかなと感じました。

弓田 覚志

当初、4月10日の19時から1時間読む予定を入れていた。当日は年度始めで、仕事でやることが多く時間ギリギリに行っていた。そうしたら、その前の時間30分読むことになっていた義父が時間に遅れたことよって、このリレー通読に興味を持ち教



日本聖書協会から届いた認定書

会に入ってきた男性の方が義父の時間帯に聖書を読むことになった。それで、私の1時間の持ち時間のうち30分を義父にあげたため、私の読む時間は30分となった。ちょうど仕事が早い時期で他の日に行きづらく、1時間頑張つて読むつもりで予定してはいたが、1時間保つかなと不安だったので、30分に短くなって内心ホッとした。しかし読んでみると、1時間でも読めたかなと思つた。

CSで聖書を声に出して読む機会もあるが、声を出して読むことは良いことだなどつくづく思う。普段、毎日読まなくてはと思うが、なかなか読めずにいる。日々の仕事をさらに確実にスピーディーに効率的に行うことによつて、聖書を読む時間を確保していききたい。体力も温存して祈祷会へも出て、聖書の勉強もしたい。改めて、参加させていだいたことで聖書の大切

さを再認識した。ありがとうございました。

弓田 仁美

聖書全巻リレー通読。軽い気持ちと子供達に参加させたいという気持ちで参加しました。が、神様はそんな私にも、この「聖書通読する箇所(御言葉)」を、私に向けて、その日その日の私に響かせて語りかけてくださいました。

3回目の予定を入れておいた4月13日の夕方、すっかり忘れてしまいました。後で穴戸俊介牧師に「弓田さんが来なかった故に、一度も参加しなかった方が読むことができませんでした。神様の業は素晴らしい」と伺い、私のチョンボも神様の御計画のうちにあつたのかなあ?と都合よく解釈し、神様の恵みの深さに喜びを覚ええました。来年も、リレー通読に参加したいです。

渡辺 春美

聖書通読が多く参加者を得て、ヨハネの黙示録まで完了できたことはよかったです。また、新共同訳の新しい聖書が与えられましたことも感謝です。いつも慣れ親しんだ聖書を読むことで、参加した教会学校の子供達も、戸惑いを感じることがなく読み進むことができました。私自身は一週間毎日教会に足

運び、これまでにない程、充実した受難週を過ごすことができたと感じています。また、聖書の箇所も祈祷会で説き明かしを聞いたり、教会学校のお話で熟読していたところは頭に思い描きながら読むことができましたが、一方、全く親しみのない箇所はただ字面を追っていくだけになってしまい、説き明かしを聞き、意味を深く理解することの大切さを改めて知りまし

た。また、仕事のため、交通手段がないためなど、様々な事情で参加できなかった方々のために、来年はできるだけ多くの方に参加していただけるように考え、工夫しながら実行できたらと思います。

教会学校の子供たちも参加しました。

石橋 基文 15分

読み続けるのが大変。のどが

かかれてきて、読みにくくなつた。

穴戸 羌佳 15分を2回

ふつうに読めた。

弓田美和子 15分

詩編だった。難しくなかつた。



信仰告白

石橋 基文



その中で、ぼくはモーセが一番心に残りました。モーセの神様に忠実に従つたところがいいなと思ひました。

これからは中学生になって部活で休むこともあるかもしれないけれど、なるべく教会学校に通うようにしていきたいです。これからもみなさんにお世話になるかもしれませんが、よろしくお願ひします。

(2017年4月18日)

イースター礼拝にて信仰告白)



イースター祝会で、教会学校の讚美

# 転入会しました。

## 愛宕町教会に 転入して

立澤恵美子

「弱いからこそ、教会に繋がっていたい。生きて行くためには、教会から離れられない」、このような私を、受け入れてくださり、心より感謝いたします。

その昔、受洗することは単なる形式、儀式だと思っておりました。そのような私に、神様は素敵な光景を見せてくださいました。受洗直後に、眼を開き、辺りを見渡すと、ひとつひとつがカラーに置き換わるという不思議な現象。これは、この世を去るその時までずっと心に大切にしたい、そして伝えたいことです。



と思うと、とてもわくわくいたします。これからもどうぞよろしくお願いたします。  
(2016年12月4日)

主日礼拝にて転入

## 神に導かれて

河西 光代



主の御名を賛美いたします。昨年6月13日に初めて愛宕町教会で礼拝を守り、神の恵みを与えられ喜びに涙が止まらなかったことを思い出しました。その後礼拝に通い、一年を迎えようとしていた5月14日に転入会することができました。皆様に温かく迎えられ、感謝しています。

私は甲斐市富竹新田で1935年に生まれて82歳を迎えますが、子供を好きなことが

ら保育士として働き始めました。20歳になると、両親の勧めで花嫁修行を始めることになりました。料理を学ぶために教会の前を通っているうち、ある朝、美しい讃美歌が聞こえてきましたので、入って見学させていただきました。それから礼拝に出席し、聖書を学ぶようになり、1957年にヘンリー・ブルノギ宣教師から洗礼を受けました。後に夫となる河西正彦さんと一緒に受洗しました。

その後、1961年11月に結婚に導かれたが、結婚後は子育てと仕事に追われる日々でした。甲斐市立保育園の園長を経て、市役所係長を最後に無事退職したものの、しばらくして夫正彦は急性白血病で61歳で逝ってしまいました。白根高校校長退職の翌年でした。

それからは悲しみと苦しみの始まりです。死にたいと思うようになってしまいました。気が紛らわせるためにダンスとゴルフの明け暮れでしたが、逃れるどころか、ますます悲しみと苦しみに狂いそうでした。

そんな時に導かれ、教会へ行き、礼拝を守ることに気づかされました。兄弟や子供たちが心配する中で、身一つで若草町十日市場の家を出て、故郷の地、甲斐市のあやめの里に移り住んで3年目を迎えます。今では心配してくれた兄弟や子供たちは

喜び、あやめ通信を通して私の生活を知っては安心し、その通信を楽しみに待っています。通信を見た後には、喜びのメールと感想が必ず送られて来るようになりました。

すべて神の導きによるものと感謝します。人生初めての一人暮らしの入居でしたので、もちろん不安で、夜は眠れませんでした。詩編23編を読み、祈って眠るようになりました。夫が死ぬ前に聞いた讃美歌を聞きながら眠る努力を惜しまず、今でも必ずこの讃美歌と祈りをもって眠れるようにと心がけています。

それに加えて、職員の献身的な支えがなければ今日がなかったかもしれません。教会生活が出来ると御配慮くださり、助言をくださいます。今では家族同様の親身な支えと、私の生き方を理解してくださる協力者として感謝しています。これらすべて神の導きと感謝しながら、これからは神さまが用意してくださる善い業に歩む者とされたいと願いつつ、夫の待つ天の御国に入る日を待ち望みます。

愛宕町教会の皆さまに良き交わりをお願い申し上げます。牧師の御言葉の説教に感謝しながら教会生活をして行きたいと思えます。

(2017年5月14日)

主日礼拝にて転入会

## 編集後記

教会報「いずみ」の発行は、出来るだけ早くと思いつつも皆様のお手元に届くのは遅くなるのが常でした。しかし今回は、宍戸俊介牧師の提案による初めての試み「聖書全巻リレー通説」を実施し、参加した方々からの感想を募ったところ、多くの文章が寄せられました。嬉しいことです。どの感想も「本当にそうだね」と共感しました。これは早く皆さんにお伝えしなければと、今日の発刊に至った次第です。愛宕町教会の良いところ、それは「決まったことは皆でやろう」という姿勢です。まさしく信仰共同体の教会です。是非来年も、出来るだけ多くの方が参加できるように願います。

今年は宗教改革500年、ルターは聖書について次のように述べています。「聖書を深い祈りをもって読むこと、心の中で黙想するばかりでなく、口に出して繰り返し読むこと…」(KS)

3年連続研修会 (2016年~2018年)

## 2017年 教会全体研修会

《日時》 9月24日(日) 礼拝後~ (予定)

《講師》 宍戸俊介 牧師

### 御言に聴き、待ち望む

昨年に引き続き、旧約聖書 ハバクク書から第2章を学びます。